

平成30年度「不登校に関する研修会」講義記録

【第4回】平成30年10月22日（月）県立総合体育館

テーマ : 「学級という機を織る
～教室でできる気になる子への支援～」
講師 : 曾山 和彦（名城大学 教授）

- 1 よりよい学級づくりがすべての教育課題を解決する
 - ・ 「学力の秋田！」（学習指導）
 - ・ 「秋田わか杉っこ学びの十ヶ条」（生徒指導）
 - ・ 「気になる子が溶けこむ授業」（特別支援教育）
- 2 学級づくりの理論
 - ・ 「居場所」の2条件・・・ルールとふれあい（リレーション）
 - ・ マズローの階層説が「居場所」の理論ベース
- 3 ルールづくりは「2本のアンテナ」感知&対応
 - ・ 「ルール違反」を見逃さないアンテナによる感知&対応
 - ・ 「ルール遵守」を見逃さないアンテナによる感知&対応
 - ・ 障害特性、年齢、発達段階への留意が必要！
- 4 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）
 - ・ 差別的取扱いの禁止（法定義務）
 - ・ 合理的配慮不提供の禁止（国・地方公共団体等は法定義務）
- 5 ASDに対する「理にかなう」支援
 - ・ 視覚情報の活用 ←フォトグラフィックメモリー
 - ・ 一度にひとつ ←短期記憶の弱さ
 - ・ 予定の伝達 ←見通しの持ちにくさ
 - ・ 肯定的表現 ←苦手な禁止、注意
 - ・ 文化に寄り添う・・・感覚の感性、字義性
 - ・ 「文化に寄り添う」以外はユニバーサルな支援でもあり！
- 6 年齢・発達段階への配慮とは
 - ・ 「注意・指示&褒め言葉」が効く・効かない境は？ →10歳or思春期
 - ・ 「子どもは褒めて育てる」・・・大ウソ！？ →「境」&「落とし穴」
→ 「大揺れの船（思春期）」から、子どもが海に投げだされた時、泳いでいく・浮き輪を投げる等、助けられる大人に！
 - ・ 「ありがとう」は「私」気持ちを伝える、最強・最高・最「幸」な言葉

7 ふれあいづくりは「縦糸」&「横糸」を織り上げる

- ・ 縦糸：教師と子どもを結ぶ糸
- ・ 横糸：子ども同士を結ぶ糸

8 教師と子どもの「縦糸」を織るワザ

- ・ すべての子どもに声かけという「ボール」を投げる
→ 気になる子には学校全体で「ボール」を投げよう
- ・ 子どもの「長所」「好き・得意なこと」等を使い、褒める・勇気づける・認める
→ 「気になる子」の長所を見つけられるのが「プロ」

9 子ども同士の「横糸」を織るワザ

- ・ 短時間&ゲーム感覚で楽しめるグループアプローチを活用する
→ ふれあいづくりの「花火を打ち上げる」と「火を灯し続ける」

10 鳥取市立桜ヶ丘中学校の実践

- ・ 平成28年度、短時間グループアプローチ（GA）「桜咲タイム」導入
- ・ 平成28年度3学期、校区内4小学校6年生に「桜咲タイム」出前授業実施
- ・ 平成29年度1学期、中1不登校ゼロ実現 ← 小中連携という「王道」
- ・ 平成29年度、「アクティブラーニングの伝道師」小林昭文先生提唱のアクティブラーニング授業を導入

11 ふれあいづくりの花火：平っこタイム4年目

- ・ 三重平中QUデータのプラス変容
- ・ 学校全体の雰囲気良さ、生徒の表情の良さ
- ・ 「満足群」生徒の増加

12 ソーシャルスキルトレーニング（SST）：行動の教育

- ・ SSTの骨子：「してみせて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」（山本五十六）
- ・ 演習：アドジャン
→ ねらい：挨拶、話の仕方、話の聴き方（傾き、視線、表情等）

13 構成的グループエンカウンター（SGE）：感情の教育

- ・ SGEの2本柱：エクササイズ&シェアリング
- ・ エクササイズのやりっぱなしではなく、「〇〇に気づいた、〇〇を感じた」等、個々の気づきをうながすシェアリングがとても大切
- ・ 演習：アドジャン
→ ねらい：自他理解

14 ソーシャルスキルとはよりよい付き合いの「型」

- ・ 「型の中に見出す違いが個性になる」(松平)
- 技術・コツ・テクニックを身につけるには「型」の習得から始まる。ソーシャルスキルとは「人とかかわる技術・コツ」のこと。例えば、挨拶やうなずきというスキルもまずは「型」を教える。ある程度「型」が身に付く中で、「元気な挨拶」や「しっとりした挨拶」などの違いがその子らしい「個性」として見えてくる。

15 まとめ ～温かな学級づくりのために～

- ・ 軌跡が奇跡を生み輝跡となる
- ・ 一つだけでは多すぎる (外山滋比古)
- ・ 今見ている景色も楽しむ